

**同期生・同窓生に声掛け合ってご参加ください。
奥様、お子様、お友達もご同伴ください。
会場が変わりました。**

静中・静高 関東同窓会 会報

静中・静高関東同窓会
会報 第59号
平成17年5月31日発行
編集人 村松 貴彦

平成十七年度 関東同窓会総会・ 懇親会を開催します。

初夏の候、益々ご清栄のことと存じます。日頃は関東同窓会の事業推進にご協力いただき、心より感謝いたしております。さて、以下により平成十七年度総会を開催いたしますので、ご多忙とは存じますが、ご出席くださりますようお願いいたします。今回は同窓者もご参加いただけるようにいたしました。お互い誘い合わせてご参加ください。

関東同窓会会長・清水 汪

記

日時 七月八日(金) 18時～
場所 弘済会館

東京都千代田区麹町5-1-1

電話 03・5276・0333
会費 3000円(ただし学生は1000円、同伴者1000円)。

議題

平成十六年度事業・会計報告
平成十七年度事業計画、予算案など

講演 姫野友美さん(88期)



東京医科大学
科大卒、日本
テレビ、みの
もんたの昼の
番組「思いつ
きりテレビ」
やテレビ東京

の「レディス4」などに出演中。「ひ
めの友美クリニック」院長、女性のた
めの生涯医療センター」主宰。(姫野
さんのプロフィールは次ページ)
テーマ 人生のピンチをチャンスにか
えよう

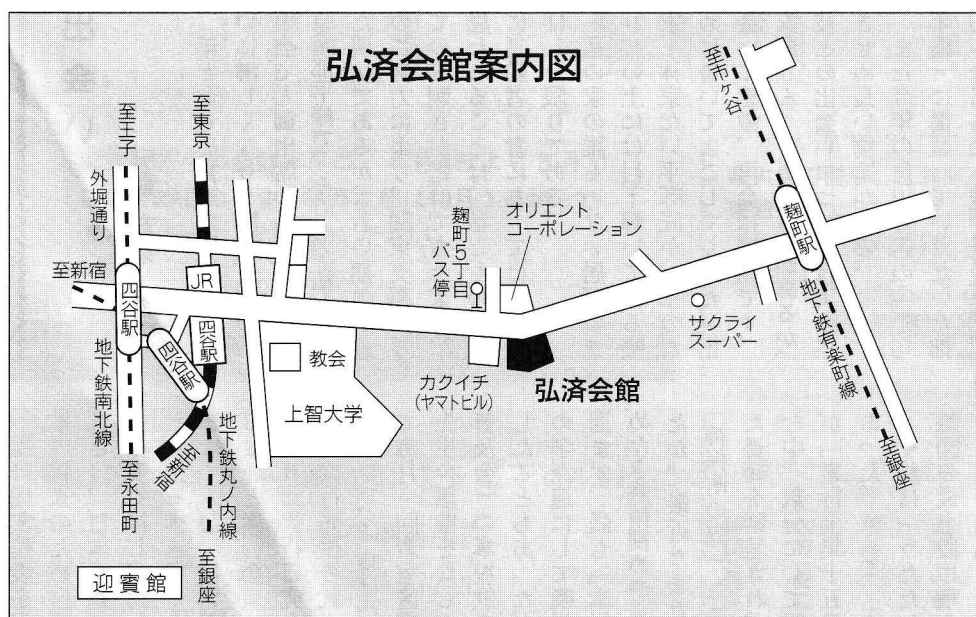
総会、講演終了後は懇親会を開催し
ます。本年は83期の当番幹事の皆さん
が準備をしてくれております。皆さん
多忙の中、同窓会総会の成功を目指し
て頑張っていたいております。

さらに今回は、奥様、お子様、お友
達など、ご同伴いただいた方をも歓迎

しようと胸襟を開いた会にしま
す。当日は静岡から恒例の美味
しい故郷の味などの味が届きま
す。
会場は昨年までではなく新
会場になりました。JR四谷駅、
地下鉄麹町に近く分かりやすい
場所ですので、同窓生お誘い合
わせてお気軽にご参加ください。

同封のはがきに恐れ入ります
が50円切手を貼り、出席か欠席
かを、また近況を記し、さらに
同窓生の消息をご存知の方は、
該当欄に記入して六月十五日ま
でに投函してください。
ファクシミリにて送信の場合
は、03・3257・0820
までお願いします。

弘済会館案内図



●交通のご案内

J R 総武線・中央線……四谷駅・麹町出口徒歩5分
地下鉄 丸ノ内線・南北線…四谷駅・共通1番出口徒歩5分
有楽町線……………麹町駅・2番出口徒歩5分
バ ス……………麹町駅5丁目下車1分

静岡の万葉を歩く

(三十)

51期 原崎 郁平

浜北市平口五〇五三、万葉の森公園に次の歌碑が立っている。

磯の上に

生(お)ふる馬酔木(あしび)を
手折らめど 見すべき君が
ありと言はななくに

大来皇女(巻二・一六六)

平成三年一月十七日建立 建

立者 浜北ライオンズクラブ

揮毫者 大城東石(書家)

寸法は高さ百十センチ、幅百六十センチ、厚さ三十八センチ



の自然石で、この石に縦四十六センチ、横六十センチの黒御影石がはめ込まれ歌碑の文字が彫られている。歌碑が立っている万葉の森公園は、遠州鉄道・浜北駅西方約二キロ強のところにある。碑裏に次の言葉が刻んである。

「六八六年十月三日、大津皇子(おおつのみこ)は謀叛の罪で殺されました。二十四歳でした。かわいい弟が殺されて途方に暮れる姉の大来皇女(おほくのひめみこ)、『馬酔木の花がきれいに咲いているので、皇子に見せてあげようと思ったのに、あなたはもういないんですね』大来皇女(二・一六六)「浜北ライオンズクラブ結成十五周年記念 平成三年一月十七日

揮毫者 大城東石
万葉の森公園の近くの小松という町に旧制静岡中学のクラスメイトの石井智海(ともみ)君が長年住んでいる。石井君は静岡在学中は焼津から汽車通学をしてきたようであるが中学卒業後、医科大学に進み医師になった。戦時中は陸軍軍医として外地に転戦し大変苦勞されたという

姫野友美さんのプロフィール

横内小・東中から静岡。在学中は女子バレー部主将として活躍。マラソン大会優勝、東大理一をすべり止めにするスーパーレディ。バレー部は一年中屋外で活躍していたので、小麦色の肌と大きな瞳、真っ白な歯がチャームिंगな健康美あふれる才女でした。現在も多忙な中から「飲ちゃんの全日本仮装大賞」に出場、入賞するなど人生を楽しむ余裕をみせてくれます。(88期・金森文孝)

た。我々の仲間が軍隊に行き敗戦で捕虜になったが運良く生き残った一人である。戦後は浜北市で産婦人科の医院を開業していたが、最近の後継者として長男に譲り第一線を引退している。以前、万葉の森公園を訪れた時に電話で呼び出したが、診察で多忙だったようでお会いすることができなかった。

この地方に「諏訪湖に行く穴」と言う次の伝説がある。今は浜北市となったが旧浜名郡赤佐村岩水(今は遊園地になっている)に石灰岩の洞窟がある。これは昔、この裏山に住んでいた大蛇が、水を飲むために諏訪湖へ毎日通った穴だと言われる。穴は天竜川岸に沿って諏訪湖まで続いていたと言われている。なお、その付近の人たちは山へ薪取りに行っては時々大きな蛇を見かけたということである。

出 会 い

54期 安東 哲夫

年とともに吾々の周辺もしだいに淋しくなり、関東支部の幹事会でも御出席の長老が51期の原崎郁平様で、その次が私といった現状であるが、若い期の諸兄のご努力により、関東支部に嘗ての活刺さが甦ってきたように思われることは、私どものように高齢者の者にとっては殊に喜ばしい限りである。

私の家の誰もいない居間のテレビの上には目下輝いている嘶家・林家たい平師匠が、私のために書いてよこしてくれた「出会いに感激、再会に感動です。安東さんへ」との言葉があるが、彼との出会いについては実は尽させぬ長い物語がある。

また今年の角川書店の「俳句年鑑」に掲載していただいた拙句「今日も会う会釈は言葉春隣」が生まれたこの人との出会いなど、振り返ってみると、人生は出会いの連続であり、この出会いを大切にすることによって、人生は豊かになるように思うのである。

先日、私の親友を静岡で葬送して以来、益々その念を深めているしだいである。

私は住友建設を退職後は、日本の将来のため自分の為すべきことは、日本有数の青年になるべく多く接し、語り継ぐべきことを語るべきであると心に決め、それには自らも学ばなければならぬと素行会(乃木大将が創設された素行研究会)に入会して、素行先生の武士道と国体を学びつつ、一時は乃木大将に倣って毎月一回新宿区宗参寺の素行先生の墓参をなし「みことのり普及会」の奉祝歌を墓前で奉唱したこともあったが、素行先生の学深遠にして晩学遅々として進まず、尚も「素行全集」を求めたき熱情燃めやらぬ想いであったが、最近たまたま友人より「神保町の蟲」なる一風変わった書籍を贈呈され、早速読み進む中、数分にして眼に入ったのが「素行全集十五巻」の文字であった。

それは「うたたね文庫」の俯瞰図の最上段に積み上げられていたのを発見したもので、最上段にあったればこそ、「素行全集」名が記入される余地があったというもので奇遇の重なりというべきか。直ちにうたたね文庫に尋ねると、まだあるとのこと、直ちに申し込み、宅急便で配達してもらったのである。私はあまりの幸運と嬉しさに素行会の常任理事をしてもらえる

陸士五十期（小生は陸士五十五期に相当する陸軍経理学校第四期生）の河戸博詞先生に電話申し上げた処、それはよかったと大変喜んでくださったのであるが、折り返し電話があり、今日は三月二十三日で陸軍経理学校第三期生・第五期生の区隊長をなされ、私も親しく教えを仰いだ方で、河戸先生とは特に深交篤い私と三名で懇談の場を設ける約束までできていながら、その実現前に亡くなった安本区隊長の命日であることを思い出した。君が素行全集を手に入れることができたのは安本さんのお導きではなからうかと安本さんの奥様（九十三歳）に電話されたとのことであつた。そういえば安本区隊長の敬礼の端正な美しさは、陸経全生徒の憧れの的であつた。それから一時間ほどして奥様から奇遇とお喜びの声がお歳を感じさせない張りのあるものとして私の身を打ったのであつた。しかも私が昭和十七年勤務した福知山連隊の炊事係軍曹として私を輔けてくれた大槻氏が奥様の弟に当たることまで判り、その後は長い長い電話となり夜半にまで至つたのであつた。

陸軍経理学校では昭和十二年八月以降毎年五月青山善光寺において陸経校の教官並び生徒の

物故者を慰霊する法要を行っており、今年五月二十一日、第六十九回法要の席で安本区隊長の奥様とはじめておめにかかる約束できたしだいである。

時は移っていくものの、その中に綾なす深い縁には今は全く眼に見えないものも多いのであるが、これを手繰ることはまた人生の楽しみではないであろうか。

岳南健児

世界的工芸家芹沢銈介展



57期
岩井 平一郎

私は、芹沢先生が日本のみならず世界的な芸術家で静岡中学の大先輩であることは、よく知っておりましたが、本年五月東京日本橋高島屋で生誕一一〇年記念の作品展に行く機会を得て今更ながら先生の作品に驚きと感銘を受けました。

多数の作品の中には、美しく大胆な模様の着物、のれん、屏風をはじめ、字模様の文字デザイン、基督図、法然上人御影、ガラス絵、板絵又多くの人の目に触れるマッチのレッテルデザイン、クリスマスグリッティン

グカードの英語文字のデザイン、そしてまたエロティックパターン等まで実に限らない創造への挑戦からのみ到達する事の出来る芸術品でありました。

私が父の後を継いで中小企業の印刷会社を現在の年齢まで多くの方々のご指導ご援助により続けてまいりましたが、家族が横浜出身のためか私は子供の時から内外の色彩デザインに関心があり、またことも先生に特に感銘を受けたと思っております。

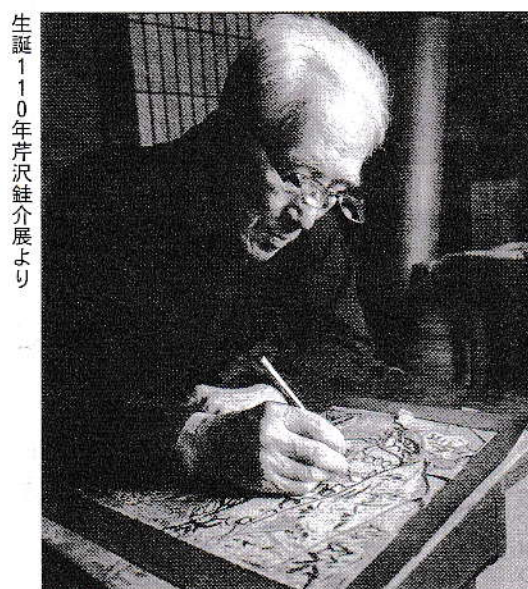
先生は明治二十八年静岡市本通りの裕福な呉服商に生まれ、静岡中学（画会メンバー）東京高等工業学校（現東京工業大学）図案科で学ばれ民芸運動創始者の柳完悦との出会いで民芸運動に参加されました。

なお同窓生の陶芸家浜田庄司、

上級生の河井寛次郎等とも民芸運動を通じて交流されております。そしてこの間これらの方々と沖繩に旅をされ沖繩伝統工芸の紅型（びんがた）の美しさに関心をもち独創的な型絵染を考案され染色家の地位を築かれて行かれました。

展示会の説明によりますと、芹沢先生の「国の美」を追求する民芸運動で培った素朴で骨太な美しさを多くの作品に表現され、しかも八十歳を過ぎても若々しく妥協を許さず頑固で信念を貫いた作品に挑む姿があつたと書いてありました。これこそ岳南健児の鏡であり私共の誇りだと思っております。

生存中フランスパリの国立グランパレでまたアメリカ サンディエゴで展示会を外国の芸術家の注目のもとで催されました。そしてフランス芸術文化功労賞を昭和五十八年に授与されております。



生誕110年芹沢銈介展より

昭和五十九年芹沢大先輩は八十八歳で偉大なご生涯を閉じられました。後にな

りましたが、先生は三百名を超える弟子の育成に力を注いでおられます。

収集した美術工芸品は五五〇〇点、古代から現代、日本各地は勿論アジア、ヨーロッパ、中東、アフリカ、アメリカ、オセアニア等世界中に跨っております。

二十世紀日本が生んだ類稀なスケールの芸術家芹沢銈介先生について、既によくご存知の先輩後輩の皆様には、私の思うままを書かせて頂きました事をご容赦お願い致します。

先生の主な作品は、静岡市立芹沢銈介美術館や東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館に所蔵されています。

◆静中・静高関東同窓会会員の拠出金で運営しております。年間三千円です。よろしくご協力ください。なお事務局は左記のところにあります。

野方重人法律事務所内

住所 〒101-0045

東京都千代田区神田鍛冶町

3・7・3 藪下ビル6F

TEL

03・3251・2348

FAX

03・3257・0820

北国の雛祭りを尋ねて

64期 野澤 正憲

「本問様には及びもせぬが、せめてなりたや殿様に」と歌われた日本一の大地主、本問家及び美術館をかねてから一度訪ねてみたいと思っていた。たまたま雑誌に本問家のお雛様といった記事が掲載されていたのを読んだ。

酒田の近くには藤沢周平さんの故郷、海坂藩の鶴岡もある。芭蕉の旅した最上川の舟下りも、日本海に沈む夕日のきれいな湯野浜温泉と、すべてを見学と欲張りな小生、家内と二人、春彼岸を利用して三泊四日の旅に出た。酒田市のガイドさんと山居倉庫前で待ち合わせ、酒田市の由来、庄内米歴史資料館より始まり、庄内平野、最上川、河村瑞賢、北前船、酒田三十六人衆等の説明を受けた。

本問家の歴史は元禄一年初代、原光が酒田で新潟屋という店を開業したことから始まる。そして北前船の交易で、それまでの商いを飛躍的に拡大したのは、三代目の光丘だった。本問家本邸は光丘が、藩主酒井家のため幕府巡見使宿舎として建造、その後拝領し、本邸として使用し

ていた。

旗本二〇〇〇石格書院造りの武家屋敷で、奥が商家造りとなっており、二つの建築様式が一体となっているのは全国でも例がない。当時苦しい財政事情を抱えていた庄内藩の酒井家、米沢藩の上杉家をはじめとする、主に東北諸藩に支援や助言などを行い、財政の立て直しに尽力したばかりでなく、河川の治水や飢饉のための米の備蓄など、利益の四分の三を投じて、数々の公共事業に力を注いだ。酒田西浜の黒松林も砂防のために手掛けた植林事業として知られ、今も酒田では本問家の名を知らぬ人はいない。

清遠閣という建物は、四代光道が港湾労働者の冬期雇用対策

として、文化十年（一八一三）築造され、酒田の迎賓館として利用されてきた。これが美術館である。

敗戦で打ちひしがれた人々のために、戦後間もない頃に雛人形展を行い、以来「ひなまつり古典人形展」が恒例となっている。本問家旧本邸では本問家に伝わる貴重な雛を拝見できた。高さ二メートル、幅一間半と、座敷一杯の襖飾りは見事だった。

最上段には精巧な顔立ちの京都製の有識雛と白髪の子雛「相生」様が仲良く並んでいる。

そのほか黒塗りに金蒔絵の美しい雛道具の数々は葵の紋入りだ。見台、硯箱、刀掛、一つ一つ精緻かつせん細、銀製の金具にいたるまで、その作りは本物で、何ひとつ手を抜いてない職人の卓越せる技が光るまさに美術品である。特に印象深い雛人形は相馬様に展示してあった旧白崎家所蔵で中央高校に寄贈され、三月三日の卒業式には観覧され、後は相馬様に移動し飾られる。紫宸殿前の「斗鶏」場面の雛飾りはスケールが大きく実にリアルに作られており感激した。

これを毎年展示し、また保管する人々の苦勞に頭が下がる。あでやかな気品あふれる享保雛、丸顔の典雅な次郎左衛門雛、三

寸にも満たない愛らしい芥子雛、新旧さまざまな種類のお雛さまを眺めながら昼食を味わい、正に至福のひとつきであった。

さらに清遠閣のお雛飾りを拝観した時、段飾りの左右に一对の傘福という飾りがあった。一瞬似ているなと思った。それは近年にぎにぎしく宣伝されている伊豆稲取の吊るし雛と同じようなものだった。

酒田の方は傘の骨の先に一個づつ、猿の子、柿の実、唐辛子、金匱、軍配がついて傘が二段になっている。片や稲取は傘ではなく、洗濯物を干す丸い金輪に一個ではなく一つに五個、干し柿を吊すように下げてあり、輪に五つか七つ吊り下げてある。三年くらい前に逝去した川口実君が、昔稲取は貧しくて静岡のように、女の子が誕生してもお雛さんを購入できなかった。それで両親や祖母、親戚が端切れで、炎を去る、で猿、や柿、金匱などを作って、その子の無事成長を祈願した。近年は雛壇飾りの両脇に飾るようになったが、あれは雛様の代用品だと言ったことを思い出した。だが何故稲取だけにある習慣なのか不可解だった。伊豆の大島に「島飾」という民謡があるそうだ。「本問様には及ばぬけれど、せめて酒田の殿様に」というらしい。

北前船が酒田から江戸へ米を廻船するとき、風待ちで大島に立ち寄ることがあれば、大島と稲取は目と鼻だ。高価な錦紗や京の雛は買えないが、傘福の類似品なら誰でも作れる。事実その原型は酒井家菩提寺、松山町・心勝寺に奉納され、現存していると聞く。

旅の終わりに村上駅で下車、昼食に立ち寄った料理屋のお雛飾りのなかに、戦いすんで無事凱旋した殿様が我が子を膝の上に抱きあげ、奥方が喜びのあまり両の手を大きく万歳のようにあげ、家臣も拍手している姿の雛を見て、これぞ本当の生きていく幸せの姿だと思った。旅館で朝、夕のご飯のお米のおいしかったこと、これも幸せ、生きている。生かされている、幸せな旅でした。

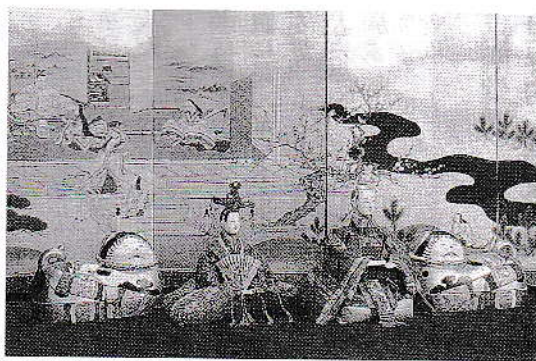
チャメさん こと

佐々木勝彦君に捧げる

73期 山梨 由記

君の笑顔が素晴らしい。いつも友達の中にあって陽気で明るく、楽しい雰囲気を出してくれたチャメさん。

静岡の柔道部で共に汗水を流して頑張っていたあの頃から、君は「チャメさん」と呼ばれる



本問家旧本邸、雛屏風・古今雛

人気物だったね。今、過去形で書くのが辛い。

長い間、卒業してから四十数年になっても、君に合えばチャメさんで通してきたが、数年前の同期会で「チャメさん」のニックネームは疑いも無く茶目っ気のチャメさんから来ているのかいと尋ねた事があったな。

しかし、君は茶目っ気から言われたのでは無く高校時代の映画の主人公の名前から貰ったニックネームとか言って居た様だったね。

昨年の十月半ばに、品川駅の近くの御殿山ヒルズ ホテルラフォーレ東京庭内にある、ガーデンレストラン八つ山で開催された73期の関東同期会にチャメさんも参加していたな。池の向こうには大きな森があつて、都心の喧騒を忘れさせる静かな庭園で同期会が開催された時も、まさか六年前に大病をされたチャメさんが数ヶ月の闘病生活から復帰して今は全くの健康生活を送っているなんて共に喜んだのに。それから一ヶ月半後の昨年十二月の初めの夕刻。配られた夕刊の社会面に目を見ると、横浜で交通事故が発生して犠牲者の住所も覚えのある地名で、被害者の名前も、佐々木勝彦と書いてある。年齢も六十六歳だと。これは正にチャメさんでは

無いか。新聞の活字がぼやけて、もう一度確認をしようとした時に静岡在住の同じ柔道部の小澤裕から電話があつた。

チャメさんの静岡に住んでいる妹さんから、悲報が入ったが、山梨は承知しているのかと。「今、夕刊を見て愕然としている所。すぐ家族に連絡をとるから。」「葬儀の式次第が分かったら、静岡にも連絡して欲しい。」

横浜新道（バイパス）の下を通るトンネルが有って、車と歩行者が通れるのだが、そこに小さなショベルカーを乗せた小型トラックが、トンネル手前の高さ制限板に激突して、車体からショベルカーを落下させたとの事。

チャメさんは、六年前の大病を克服しても、月に一度の検査のために東京の大学病院に検査に行くつもりで自宅を出てこのトンネルに入ろうとしていた時に、落下した小型ショベルカーの下敷きになったとは悲惨である。

ここに二つの人為事故がある。一つは、運転手のトンネル高さ制限板を無視してトンネルに突入し、落下させた事の他に、トンネルに入る直前の道路が直線では無く、カーブしながらトンネルに続く道になっているのに、高さ制限板は、トンネルに正対

して設置されると言う事は、道路に正対していないので、車体上に乗せたショベルカーを斜めに払う作用が働いて、歩行者側に落下させたと報じられていた。住民の話によれば以前から、危険をはらんでいた場所であり改善をしなければ行政の落ち度であると報じられていた。あと十秒間、早く通過していれば、あと十秒間遅く歩いていれば、君は、事故の目撃者で居られたのに。

君も無念、家族も無念。余りにも、残酷な運命よ。チャメさんの通夜にも告別式にも静岡からも関東の同期生も大勢集まっていたよ。チャメさんが六年前に退職されたのに、ゼオングループの役員社員も大勢が集まって呉れたのはチャメさんの人徳、人柄、能力だね。

式場に飾られたチャメさん愛用のゴルフ道具が物悲しい。

合掌

趣味

73期 西本 昇平

三年間の静高在学中に親しくなった友人とは、卒業後五十年近くが過ぎた今でも親しく付き合っている。私の七十年近い人生で三年以上の関わりがあつた

人は数え切れないほど大勢いるのに、静高でできた交友関係だけがいつまでも変わらぬ雰囲気が続いているのは実にうれしく、また不思議なことでもある。

同窓会はこの絆を保つ場となり、また必ずしも交流が密ではない旧友の消息を尋ねる良い機会を提供してくれている。

私は子供の頃から風揚げが大好きで、今でも趣味として続けている。毎年、近所の小中学校や公民館などで風作りを指導する機会が何回もあり、多くの子供たちと楽しく幸せな経験を重ねている。都会地の生活圏には安全に風揚げを楽しめるような場所がほとんどないが、それでも東京都足立区・板橋区・中央区・千葉市、取手市、相模原市、座間市などが、公園や河川敷、海岸の砂浜を利用して住民の風揚げ大会を毎年開催してくれているのは、私のような風揚げ人にとってはとてもうれしいことだ。

現代では正月を除いて風揚げが話題になることなどないが、江戸時代には風揚げは人々の日常生活に溶け込んでいたようだ。文化九年（一八一二年）刊の「隣の宿替」という書物の「へびわけ」という笑い話を紹介して拙文を終ることにする。

……金持の商家の旦那が五人

のめかけを町内に囲って楽しんでいたが、正妻はいなかった。

やがて五人のめかけの中から一人を正妻に選ぶことになったが、選にもれる四人のめかけが嫉妬してもめごとを引き起こしても困るので、正妻選びの方法に頭を悩ませていた。そこに知恵をさずける者が現れて、五人のめかけに五色の風を揚げさせて、その色の気に入った女を正妻として迎え入れることになった。

五人のめかけはそれぞれに、日の丸、源氏の白旗、黄色の将棋の駒、黒いなまず、青表紙の本（儒教の教科書）をかたどって風を作り、思い思いに揚げた。旦那は家の物干し場に坐って品定めをしながら思索した、「青表紙はかたくりしいのでダメ。将棋の駒は（商売が）詰まるのでダメ。なまずはヌラクラしてとらえ所が無いのでダメ。残る日の丸と白旗はどちらも捨て難いな」。すると突然その二枚の風がからみ合い、もんどり打って引きちぎり合った。旦那はそれを見てなげいた、「まだ決まらぬうちから、もう嫉妬し合っ

て喧嘩している！」と。

（西本さんの手づくり「つなぎ筒風」の写真は7ページに掲載してあります）

51期同期会

他人(ひと)ごとと 思いし
米寿巡り来て 余命数える
春はめでたし

原崎 郁平

関東地区に在住の同期生で最近の出席者にだけ案内し、八名が平成十七年四月六日に銀座六丁目の和食レストラン富貴堂に集まり、広瀬毅君の名司会で始まった。常連の静岡在住の狩野安彦君は仕事の都合で欠席だったが、今回は静岡から鈴木義一君が出席した。会計係の林盛次君は病気で歩行不自由のため欠席、林君作成の前年度の会計報告資料が配布された。司会者の広瀬君から「皆さんは何を楽しみにしていますか」を話すように要望された。

①鈴木義一君、静岡市がこの四月一日から政令指定都市となり「葵区、駿河区、清水区」の三区できたとの報告があった。お浅間さんのお祭りが昨日まであったが、桜の開花は遅れている。

②渡辺功君、昨年に肋膜炎を患ったが回復した。兄弟会を毎年春秋に開催している。私は八人兄弟の二番目で長男です。

③高橋達郎君、昨年は体調を崩したがやっと治った。この会にはどうしても出席したいと思っ



④玉越俊一君、東京では昭和三十年から四人で毎月会食をしていたが、今は常連が七名となっている。この二月に坐骨神経痛を患った。毎週火木土に囲碁をやっており、毎日好奇心を持続している。長男の玉越良介は時々新聞紙上に出ているが、U F J ホールディングスの社長を勤めている。

⑤広瀬毅君、ゴルフを続けエージシューターを目指しているが思うようにいかない。しかし毎週一回のレッスンを受けているし、新しいクラブが出るとつい買ってしまう。また写真は相変わらず続けている。

⑥諫山廉君、三年前から東京都稲城市に引っ越した。車を運転して妻の買い物の手伝いをして

孫二人で賑やかです。最近8ミリビデオを撮りパソコンに入れ四〇五分にまとめてDVDに入れている。またゴルフを続けている。

⑦原崎郁平君、専門書の執筆と地方の講演を続けている。国内外の旅行が趣味で、特に万葉集の記事を書くための旅行が多い。

⑧田中賢一君、席上資料として「英霊にこたえる会」(田中君が主担当)で作成した「小泉首相の靖国神社参拝に関わる問題」が配布され全文の解説があった。別途田中君の作成資料「奉天会戦百周年にあたり陸軍記念日に懐う」が配布された。我々の年代の者としては賛同の意を表したい内容である。

本日は欠席の長井五一君から短歌と俳句の寄稿があったので席上紹介された。

「他人(ひと)ごとと 思いし米寿巡り来て 余命数える春はめでたし」

「五一会(え)はいづこ弥生の富貴堂」

食後に原崎が持参した静岡茶と手製のクッキーを味わい、最後に校歌を四番まで歌い再会を約して解散した。

写真は前列左から田中賢一、鈴木義一、広瀬毅、玉越俊一、後列左から原崎郁平、渡辺功、諫山廉、高橋達郎の八名である。

卒業五十年

下天のうちをくらぶれば…

71期 浦田 彰

夢幻の如く…とんでもない!

四月十七日、熱海のホテルに集まったわが同期生は、関東勢四十三人を含め総勢一〇九人。

時至り定刻の六時、大広間の宴席に続々とつめかけた面々、白髪あり、灰髪あり、光頭あり、腹太きあり、枯れ木あり、ゴルフ焼けあり、知恵深き眉間皺あり…、いずれも卒業五十年の星霜をしたたかに生きた証明書。夢でもなく幻でもない確かな実生活をくぐり抜けた面構えでありました。

さて、卒業五十年を祝っての五年ぶりの同期会です。お招きした吉川、小泉、三浦の三先生から祝辞をいただいたあとは談論風発、あちらでは口角泡を飛ばしての甲子園談義、こちらでは印高祭の仮装行列の再現劇。こっちの片隅では女性の同期生をつかまえて、しんみりとあの頃の純情ぶりを訴える…真ん中では先生と杯を重ねながら追試を賜った恨みをじっくりと…。飲むほどに酔うほどにクラス別に並べた配膳も乱れに乱れ、ホテルが自慢する大広間も、いつ果てるともないわが同期生たち

ちの熱気と喚声に春霞みが立ちのぼったというわけです。

隣に座ったF君が言いました。「五十年ぶりにはじめて参加した。今まで同窓会や同期会なんて関心もなかったし、面倒だったし」

そうなのです、誰でも卒業直後はもちろん、三十代から五十代半ばくらいまでは、ひたむきに職業生活や家庭生活を生きているのが精一杯、過去をふりかえる余裕なんて無くて当然。

でも、私だってこの頃やっと時間もできて、同じ釜の飯を食った昔の仲間と語り合うのが何よりの楽しみ。人間誰でも加齢とともに孤独になる。仕事仲間が去り、親が去り、子が去り、やがて伴侶も去る……。

孤独はつらいものです。そう





ためには、新しい人間関係を作るしかないじゃないか。となれば、同窓会や同期会などはいいチャンスだと思ふよ。とか何とかF君と語り合ったような気がします。そして、当然ながらF君と再会を約したというわけです。

大広間の熱気はそのまま幹事部屋に移行、押し合いへし合いも苦ならず、どうせ泊るのだからと、塩煎餅やピーナッツや天津焼栗を肴に、旧交は暖まるどころか沸騰して夜が明けました。それにしても、これだけの興行を企画し、準備し、実行した静岡の幹事諸君の苦労には頭がさがる。懐かしい写真など満載の冊子も作ってくれて……。郷里の同志よ、またよろしく。

以上、来年は古希を迎える71期同期会の報告ですが、本部の会報にはもっと正確で格調高いリポートが載ると思います。併せてご覧ください。

静中60期会

母校訪問報告

原 善三郎

開花予想が大幅におくれ、東京では花見日和となった四月十日、静中60期会が焼津で開かれた。今年は昭和二十年の卒業六十年とあって、かねて要望のあった焼津グランドホテルで一泊しての会となった。

午後四時の現地集合を前にホテルのロビーでは一年ぶり、あるいは六十年ぶりの再会を喜び合う姿が見られた。中には杖に頼るもの、慎重に歩を運ぶものもあったが、参加三十六名いずれも喜寿を過ぎたとは見えぬ元気で、岳南健児未だ健在なりを思わせた。

このうち関東同窓会からの参加は、井田淳、上杉重吉、笠間達男、谷龍治、堤崇、原田龍二、原善三郎の七人であった。

全員集合の記念撮影を済ませ、温泉でくつろいだのち午後六時から宴会に移った。

地元の片山勝彦君の司会で、まずは静中・静高百二十五周年記念式典の際のビデオで、桜井同窓会長の挨拶、ローマのヴァチカン宮殿の壁画撮影で名高い同期の岡村崔の舞台上でのインタビューが上映され、改めて岡

村君の偉大な業績に拍手が送られた。

そのあと長野純明君の母校の近況報告、森迪也幹事長の挨拶、そしてこの一年間に亡くなられた八木敏夫、新聞昌輝、森行徳、河村敏尚四君の冥福を祈り黙祷を捧げたのち、初参加の谷龍治・和波司朗両君の音頭で乾杯し、歓談に入った。

鈴木亀雄君提供の自家製大吟醸「静ころ」に意気軒昂、途中黒田和彦君から静高野球部の

現状紹介があり、今夏の甲子園出場の期待も高まった。

話に花が咲くうち閉会の午後八時となり全員で校歌斉唱、名波謙三君の発声で60期万歳を三唱してお開きとなった。

いつもならこれで散会ではあるが、一泊の会ともなればそうはいかない。夫々の部屋毎に話の輪が広がり、時の経つのも忘れ深夜にまで及んだ。

翌朝はあいにく雨になったが、有志のみホテルのバスで母校を訪問。昨年完成した

百二十五周年記念の「印高館」、完成間近の静高ドーム（雨天練習場）などを、81期卒で同窓会事務局長の蔭山先生の案内で見学した。印高館には学校創立から現在までの変遷、その時々写真、記録、記念品の数々が展示され、母校の歴史と伝統の重みを改めて知る思いがあった。

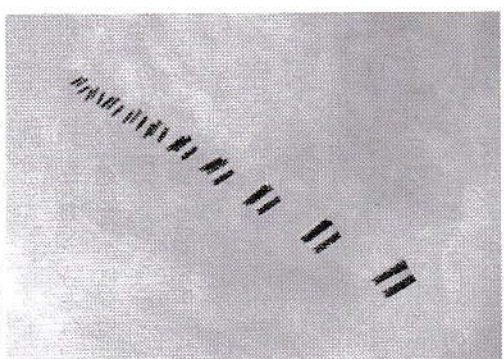
関心の高かったのは、やはり卒業前後の時期、戦火で焼け残った校旗の僅かな小片、工場動員時代に使用された鉄兜などで、鉄兜の徽章が

表示の三菱重工とは違い、住友工場のものであると指摘する声もあった。

六十年の歳月は卒業当時の姿を跡形もなく消し去っていたが、こうしてその地を新たに踏みしめることで、在りし日の母校の姿を再び心の奥に甦らせることができた。

来年は更に所を変えて日本平ホテルの予定とか、夫々に再会を約しながら、校庭をあとに帰路についた。

▽今年の77期・七夕会は七月九日（土）十六時から新宿パブ「アフター6」で開催します。同期生誘い合わせてご出席ください。昨年と同じ場所です。（77期・松井義之）



▶5ページ、西本昇平さん（73期）が作った創作風「つなぎ筒風」

ピアノの音に暫しうっとり 静中61期 “喜寿の会”

稲森 慎二

恒例の四月第二土曜日、今年
は九日、何時もの「ホテルア
ンシア静岡ターミナル」3階に八
十六名の同期生が集まった。

昭和二十年終戦の年、特別処
置で一年短縮の四年生で卒業し
た我々静中61期生も、今年で丸
六十年、そして大方の諸君が十
七歳であつたから七十七歳、喜
寿の祝いである。

こんなに大勢集まったのは、
七十歳「古希の会」以来の由、
それにしてもあれからもう七年
もたつてしまつたのか、でもま
だまだ出席出来るぞと思つた方
も多かったと思う。

そこで静岡の幹事の皆さん達
が、加えて何か一つお誘いの花
をと考え出したのが、まだ一度
も出席した事がなかった東京音
楽学校名誉教授の坪田昭三君に
出席してもらつて、ピアノのご
披露を願おうと言う企画であつ
た。これも実現の運びとなり、
まさに錦上花を添えての「喜寿
の会」は誠に賑々しく大盛会で
ありました。

その昔昭和十六年、開戦の年
に入学した私達は、その年の秋、
講堂で行われた音楽会で男性合

唱と共に、初めて一年生の坪田
君のハイドンピアノソナタを
聴いた。今回集まつた中の多く
が彼のピアノを聴くのは、その
時以来だつたのではなからうか。
坪田君も、それではと今回の曲
目も、ハイドンの後期の円熟し
たソナタの第一楽章と、ポピュ
ラーなグラナドスのスペイン舞

曲の一曲を選んだ。

リサイタルとは違う今回の開
会、開演の前のざわめきに、坪
田君は脇にいる私にささやいた。
「一寸選曲を間違えたかな」と。

しかしそんなことはなかった。
幹事さんの挨拶と、物故者への
黙祷の後、直ぐに行われた二十
分足らずのピアノ演奏ではあつ
たが、力強い音の響きに始まる
その調べは、会する者天々に色々
な共鳴を与えたのだらう、暫し
うっとりと同期生の弾くピアノ
の音に耳を傾ける不思議な時の
流れがあつた。

やがて弾き終えた直後の拍手、
そして「よかったね」の顔と言
葉に、我々一同の何か誇らしげ
な満足感が漲つていたように思
えてならなかった。

今回は、会の最後を飾る校歌
斉唱の一体感とは一寸赴きを異
にするが、その道の最高を究め
た同期生の至芸に一同耳を傾け
る一体感を味わう事の出来たこ
とをととても幸せに思う「喜寿の
会」でした。

これを企画し、設営してくれ
た静岡の幹事の皆さん、そして
これを快く引き受け、名演奏を
披露してくれた坪田昭三君、ど
うも本当に有難うございました。

教育基本法は 早期に改正すべき

74期 藤原 經史

戦後（大東亜戦争）教育、と
りわけ日教組の現場での教育方
針の弊害が叫ばれてから久しい。
日本のよき伝統・文化・文明は
遠くは風光の彼方に消えてしま
つたのか、残念でならない。最近
よく目に付くのが、バス・電車
で、車内放送でお願いされてい
るにもかかわらず、携帯電話を
無造作に使用する若い人、また
中高年の人。

先日シルバースーツに、でん
と女高生の二人座り、携帯電話
を面白がって使っている。二人
に聞きました。「貴女方、日本人
ですか」と、二人キョトンとし
た目で顔を見合わせて大笑い。「シ
ルバースーツに座り、携帯電話
を使うのはやめた方がいいよ」と
言っても、何食わぬ顔で自分た
ちの行動を続行。「彼女らに何を
言ってもだめだ」と思う。

私たちが子供のころは近所の
人たちがいろいろと注意してくれ
たし、また叱つてくれた。非
常に地域社会内でのルールがあ
り、またそれに子供も従つた。
家庭での教育、また地域町内会
での教育があった。私の父母は
明治生まれで躾は厳しかった。

難しいことではなく、朝はお早う
ございます。食事のときはいただ
きますと馳走さまでした。靴を
脱ぐときは揃えておく。うそはつ
かない。人に迷惑はかけない。
自分のことは自分でやる。

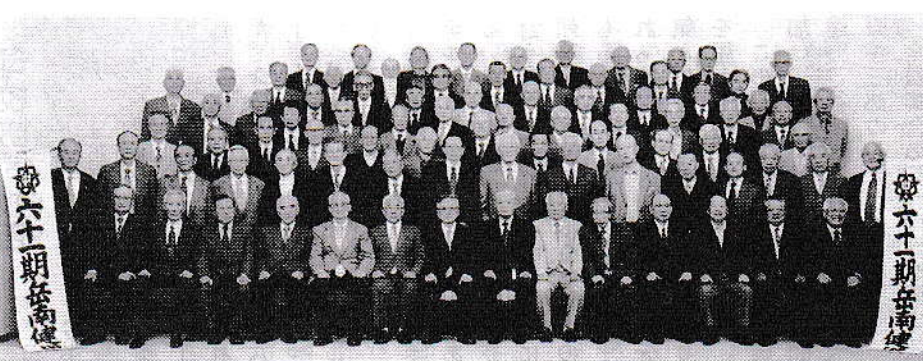
こんな簡単なことでありました
が、今思うと人として生きてい
く、最低の躾で、今の自分があ
る。

最近の国内外を見ております
と、日本人の外交力のなさ、ひ
と事・他人様のようなです。国民
の一人として、日本会議に参加、
憲法改正、教育基本法の改正、
新しい歴史教科書作る会等に参
加し、人材百年の大計のために
支援しております。

最近の講演会で、今の教育基
本法は、前文として「教育勅語」
があった。しかし昭和二十三年
頃、国会の決議として「教育勅
語」を廃止してしまつたとか。
これでは教育基本法は魂のない
もので、勝手に一人歩きするの
もしかたない。そういう意味でも
教育基本法は早期に改正すべき
であります。

静岡出身の国会議員、自治体
の長も数多く重責を担っており
ます。日本国の再生のためにお
いに頑張つてほしいものです。

中央の花飾り着物は本年幹事長の望
月淑君、その左は坪田昭三君



59期同期会

前回の倍の

出席者が集合

朝比奈 正二

恒例の春季同期会（春・秋年二回開催）を去る四月二十一日（木）午後一時より八重洲の北海道で開きました。開会に先立ち去る三月十二日老衰のため神のもとに召された前幹事でカトリック司祭の青木静男君のご冥福をお祈りして、しばし黙祷を捧げました。青木君は永年にわたり、本同期会の幹事として尽力された同期会最大の功労者でその死はいたく悼まれています。

そして、清水汪君の音頭で乾



杯、続いて歓談に移り、午後三時過ぎ散会しました。今回の出席者は十二名（前回は六名）で、写真の前列左より、川田昭、小沢将男、朝比奈正二、後列左より清水汪、青木豊、狩野和男、増田眞一、内田武二、高橋裕、小花敏郎、橋爪壮の各氏です。このほか菅原操君は都合により撮影の少し前に退席され写真には入っておりません。

なお席上、高橋裕君（国際連合大学、上席学術顧問、東京大学名誉教授）より、アジア・太平洋向け日本のPR誌として、時事画報社が、内閣府の指導により編集・出版している「ASIA・PACIFIC・PERSPECTIVES」に同君の水質汚濁、水不足等に関する問題点についてのインタビュー記事が掲載されている旨の話がありましたので紹介しておきます。



67期

「静高入学六十年」大会

八十人が集まり

大いに盛り上がる

大石 脩而

まず、写真を見ていただきました。七十歳を越えた白髪禿頭が八十人。これだけ集まると、なかなか壮観ではないか。

我々は六十年前、終戦直前の昭和二十年四月に旧制静中へ入学した67期である。

それもつかの間、六月には静岡大空襲で校舎が焼け落ち、八月には終戦。市内高松の住友軍需工場跡の仮校舎に移転したが、そこもまた、翌年二月には漏電による火事で焼け出された。

それからがまた大変だった。新しい教室を求めて小鹿の三菱工場跡に引っ越したが、そこにいつまでも居るわけにもいかず、二十二年五月に駿府城址の旧陸軍34連隊兵舎を改造した校舎に落ち着くまで、インフレと食料難の時代に、三度も校舎を転々としたのが67期だ。

おまけに6・3・3制という新学制によって「静岡中学」「静岡第一高校」「城内高校」とこれまた三度も校名が変わった激動の時代の中で、そのまま六年

間、苦楽を共にした仲間たちである。

そんな仲間たちが四月十六日、市内紺屋町の名園「浮月楼」に集まり「静中入学六十周年記念同窓会」を開いた。まず母校に集合し、昨年落成した「印高館」とテニスコートを丸い屋根で覆った「静高ドーム」を見学。教頭先生から最近の静岡の様子を聞いた後、城内の桜を見ながら会場の浮月楼に向かった。

司会の金子堅司君の静岡弁の司会もよかった。「○○君、ちょっと立ってくれねえか。オイ、みんな見てくれよ。六十年前とちーとも変わってねえじゃんか」「次は××君、……」。

残念なことに、入学者二百五十人の約三割に当たる七十二人が既に死亡していた。糖尿病、高血圧などの生活習慣病や、歳と共に気難しくなったために出席できないものもかなりいるらしい。そんな中で八十人もが集まったのは結束力の強い67期ならではのことである。席上八十余人が書いたこの六十年の「思い出の記」も配られた。これは、卒業三十年目と四十年目に続く三冊目の記念文集だ。それを読みながらお開きで昔話に花が咲き、最後に岳南健児の校歌を四番まできちっと斉唱した後、まだ物足りなくて、いい爺さんたちが三々



五々、夜の静岡に繰り出していた。

関東テニス部

OB有志の会

67期 児島 英男

テニス部関東OB会有志の会は平成十六年十月三十日(土)明治神宮外苑テニスクラブで開催予定でありましたが、当日は天候不良で残念ながらプレーは中止、懇親会のみ神楽坂の駒壽司で開催した。清水汪(59期)の乾杯の音頭で宴会に入った。冷たい雨の中静岡から柳沢学氏(68期)、蔭山正敏氏(80期)も参加され、全員昔の懐かしい学生時代の話に花が咲き若返り、楽しい一夕を過ごした。



最後は蔭山氏の音頭で「岳南健児」を合唱、またの再会を誓って散会した。なおこの会の開催に当たったの連絡、会場等のお

世話を毎回お願いしています山
中さんに心から感謝しています。
当日の参加者

清水汪(59期)、児島英男(67期)、岡村英二郎(67期)、立花
雍一(68期)、柳沢学(68期)、
川端政良(70期)、清水雅彦
(72期)、山中博司(73期)、大
河内久(73期)、栗田信吾(74
期)、蔭山正敏(80期)、成岡和
美(86期)、深沢英昭(90期)

地元静岡で頑張る
卓球部OB

五月八日卓球の静岡市ラージ
ボール大会に選手として出場し
ている静岡・静高卓球部OB会
の稲葉文雄会長(68期、写真左)
と酒井大治副会長(69期)にお
会いました。



「家において妻からコレステロー
ルが上がるから、あれ駄目、こ
れ駄目と言われ続けまして精神
的ストレス解消のため、十年ほ
ど前、近所の卓球クラブに参加
しました。おかげさまで今では精
神的にも肉体的にも健康で、市
や県の大会にも
出ています」
(稲葉さん)。両
人とも孫ほどの
娘さんとペアを
組んでのめり込
んでいた。
(寺田宏 77期)

64期

春のゴルフ会

永田 進一

去る四月二十二日、第41回関
東・静岡合同ゴルフ会を、御殿
場の太陽カントリークラブで開
催しました。前回、前々回は富
士カントリーで行いましたが、で
きるだけ平坦なコースが良いとい
う意見もあり、春の幹事役の時
田君、石原君の尽力で太陽カン
トリークラブに設定してもらいま
した。

当日は皆の平素の心がけの良
さか、朝から天候に恵まれ、ス
タート時点では目の前の富士山の
頂に雲がかかっていたが、プレー
が進行するにつれ頂の雲もとれ、
五合目辺りから上の真っ白な残
雪の雄大な富士山、麓に咲く山
桜、少し早めの新緑と、この上
ない景色を堪能しながら一日を
過ごしました。

中にはショットに追われ景色
どころではない人もいたようだが、
因みに筆者もその一人でした。
今回の参加者は二五名、関東6名、
静岡9名だったが、当初は17名
の予定だった。腰痛のため参加
できなかった石原良明君、前日
から体調不良で急遽欠席となっ
た渡辺宏一君の二名の欠席で4
組のプレーとなった。



優勝は時田勝博君。ネット80
とNP、幹事役のいろいろなプ
レシャーにもめげず、優勝はさ
すが日頃の精進の賜物。準優勝は
稲森照男君。グロス92は彼本来
のスコアには程遠いく同伴者の
山本君、永田に足を引っ張られ
た感あり。三位はベスグロ90の
風間政彦君、サスガ！。四位は
毎年参加して頂ける61期の清水
照彦先輩、グロス93、三年先輩
でグロス93は、我々64期も先輩
に負けず、まだまだ歳のせいなど
と言わず頑張らねばという声。
ブービーは前回の優勝者・小川
哲司君。小川君をブービーにし
たのは他ならぬ永田でした。そ
の他昔懐かしい静岡名物の「8の
字」の参加賞に甘んじたのは61
期の大石次男先輩、佐野旭、村
上喜代二、野澤正憲、漆畑輝夫、

井上光司、漆畑茂、山本和彦、
伊藤剛の諸君。

ラウンド終了後、いつものと
おり、和気藹々のパーティで同
期の旧友の近況など話しながら
陽春の一日を満喫し、ともにス
コアには関係なく無事ラウンドで
きたこと、喜びもひとしおでした。
年齢七十四から七十五歳にな
ろうとする友人たちが、スコアや
順位には関係なく、皆と語り合
う喜びやコースを歩ける幸せを、
また次回秋のゴルフ会に期して
それぞれ帰途についた。

●お詫びと訂正

前回の会報(第58号)に間
違いがありました。執筆者
の芹沢博樹様(61期)を芹
沢博樹様と姓名を間違えた
ばかりか、「二丁目」を
「二丁目」と、まったく異
なった意図ととれる意味の
文章になっていました。芹
沢様はじめ、関係諸氏に大
変ご迷惑をかけましたこと
お詫び申し上げ、改めてこ
こに全文を掲載いたします。
(編集責任者・村松貴彦)

61期同期会

「二丁町」の町名由来に 話題沸騰

芹沢 博樹

二年毎に開催されるわが61期の関東地区同期会は、大石次男幹事のご配慮により、例年と同様、今年も九月二十八日の十二時三十分から銀座キャピタルホテル新館で行われた。

今年の参加者は、関東地区から十八名、静岡から望月良君が出席され、総勢十九名であった。

61期は来年ほとんどの者が喜寿を迎えることになるが、体調不良等によって、出席者が減少するのは淋しいかぎりであり、一日も早い回復を願う次第である。

定刻になり幹事の坪田昭三君からの心暖まる開会の挨拶があり、続いて平成十四年以降亡くなり、続いた松永典昭君・徳永重遠君・竹迫友一君の諸兄のご冥福を祈って一分間の黙祷を捧げる。

乾杯後は飲みながら、食べながら暫くぶりの再会にたちまち雰囲気盛り上がり、話がはずみ、話題も身近な健康談義等々から、在学中の思い出の数々、消息不明の級友の安否確認、さらには勤労動員中のさまざまなエピソードまで、時には静岡弁も飛び交う有様は、全員ながら六十年

前の昔にかえった静中時代を思い出させるものでした。

特にその昔の二丁町の町名由来に端を発した同町についての話題には、同町周辺からのかつての通学者数名からの興味ある解説や見聞が披露され、往時の学校では絶対に教へられなかった特別授業まで行われる始末となった。

会もそろそろ終り近くになった午後三時過ぎ、天の声による次回幹事の指名、出席者全員の写真撮影のあと、校歌・岳南健児を二番まで声高らかに合唱して幕が下り、今年の同期会もめでたくお開きとなったが、かつての青春の日を思い出す貴重な一日であった。

次回も是非皆元気で再会したいものである。

二丁町の由来

参考までにということですが、名譽顧問の上杉重吉さん（60期）より資料が届きました。それによると、現在の駒形五丁目、県地震防災センターからその裏手に、徳川家康に従って伏見から駿府へ来た鷹匠の伊部嘉衛門なるものが、職を辞した後、家康に願って安倍川の近くに1万坪の歓楽街（遊郭）を造った。これがわが国における公娼の始まりで、元は七か丁あったが、のちに五か丁は江戸に移され「古原遊郭」となり、残った二か丁がいわゆる「二丁町」と呼ばれ全国に知られる歓楽街となった。

宗教

76期 鈴木 浩

新しいローマ法王も決まり、一件落着といったところですが、宗教というものは、なかなかというか、極めて難しい。他の宗教宗派に対して、命を賭けて戦うという人々も多い。

大体は信心深い善良な人たちが、支えられているのだから、新聞等のニュースとして登場しない日がないくらい、もめ事が多い。

各宗教内でも、新だ、旧だ、何々派だとか争いは多い。いまままでのくらくらくさんの血が、このようなことで流されてきたことか。

日本は神道、仏教、キリスト教等々、現在新聞種になるようなことがないのは、大変幸せなことだと思ふ。

あまりに激しい対立の事件を見て、よく思い出す光景があります。十年ほど前、インドネシアのバリ島へ観光に行った時、夜、現地に着き、翌朝外の様子を見ようと、ホテルの窓から下を見ると、一人の民族衣装を着た

女性が、小さな供物のようなものを、そこかしこに置いていた様子です。

後でその供物らしきものを見に行くと、それは緑の鮮やかな葉を皿のようにして、そこに色とりどりの花を乗せたものでした。

ヒンドウ教について、私は教義も何もまったく知りませんが、そここにいる自然の神々に対する現地の人々の、素朴な気持ちがあるがそこにこもっているように思えました。

人命軽視、破壊と過去からあった、これも宗教の一部分かと思うような事柄と対極的な静かな、こんなことが心に心地よくしみ込んだ感じがしました。

いろいろな宗教の原点に共通するのではないかと思うやさしさや自然に対する畏れが、憎しみの連鎖を断ち切ってくれるとよいのですが。

◇告知76期の関東同期会を毎年開催しています。毎回川島絃一郎氏のおほねおりにて、今年は八月三日の予定です。

申し込みは

kawashimaki@kyor-tsui-ph.ac.jp または電話 〇四五一九八三二五九六四へ。

*関東同窓会ではホームページを設けています。是非ご覧ください。

〇たまにいっぱい

家庭的な雰囲気六本木で静岡ゆかりの店・

紅杆 (Ku-D)

この時期でしたら駿河湾のシラスとサクラエビが生で食えます。もちろん黒はんぺんも取り寄せてます。

日本酒を中心に揃えていたのが、最近の焼酎ブームで各種揃えるようになり、ワイン、洋酒、焼酎などのお酒が楽しめます。

静岡出身で静大付属小・中で同期生なんです。二十人も入れっぱいですがおしゃれで気の聞いたものが食べられます。ご同伴で、家族連れに格好でしょう。場所は六本木交差点から飯倉片町方面へ五分ほど。

電話〇三一五五四九一九九七 紹介者・新村宏暢 89期



本部便り

☆野球部

春の県大会で優勝、
夏の大会は第一シード校に

県大会決勝は下の新聞のように執念の大逆転で優勝。が、準決勝戦を観戦したファンは、投手力も守備力も3流、鍛え直さないと、とても甲子園へはと厳しい見方。まだもう少しある時間で投手と守備力アップを望みたいという。東海地区大会成績は15ページに掲載。

春の大会時の登録メンバー（上から背番号、守備位置、名前、学年、身長、投・打、出身校）

- | | | | | | | |
|----|-------|---|-----|---|---|------|
| ①投 | 上原 浩行 | 3 | 175 | 右 | 右 | 富士岡 |
| ②捕 | 峰尾 喜一 | 2 | 179 | 右 | 右 | 西奈 |
| ③一 | 早瀬 大喜 | 3 | 188 | 右 | 左 | 東 |
| ④二 | 村松 勇輔 | 3 | 171 | 右 | 左 | 東海一 |
| ⑤三 | 樋口 将規 | 3 | 172 | 右 | 右 | 函南 |
| ⑥遊 | 大村 哲也 | 2 | 182 | 右 | 右 | 東 |
| ⑦左 | 松田 進吾 | 3 | 170 | 右 | 右 | 原里 |
| ⑧中 | 松永三三郎 | 3 | 167 | 左 | 左 | 西奈 |
| ⑨右 | 越智 英貴 | 1 | 175 | 右 | 左 | 川崎菅生 |
| ⑩控 | 勝又 大和 | 2 | 177 | 右 | 右 | 裾野富岡 |
| ⑪控 | 青木 宏 | 3 | 173 | 右 | 右 | 末広 |
| ⑫控 | 植村 慧央 | 3 | 167 | 右 | 左 | 細江 |
| ⑬控 | 永田 祐輝 | 2 | 175 | 右 | 右 | 天竜 |
| ⑭控 | 狩野 拓 | 2 | 162 | 右 | 左 | 六合 |
| ⑮控 | 久保田亮平 | 2 | 179 | 右 | 左 | 東海翔 |
| ⑯控 | 鈴木 雄祐 | 3 | 165 | 右 | 右 | 清水七 |
| ⑰控 | 大山 雅弘 | 2 | 174 | 左 | 左 | 高洲 |
| ⑱控 | 原田 健希 | 2 | 168 | 左 | 左 | 東 |
| ⑲控 | 向山 哲史 | 3 | 171 | 右 | 左 | 南 |
| ⑳控 | 山口晋太郎 | 3 | 171 | 右 | 右 | 中島 |

▼静岡新聞 5月6日より

静岡 4年ぶり春王者

春季高校野球県大会

最終日

春季高校野球県大会最終日は5日、あしたか球場で決勝と3位決定戦を行った。中部地区大会決勝と同じ顔合わせとなった決勝は、静岡（中部1位）が10-8で静岡工（中部2位）に逆転勝ちし、4年ぶり7度目の春の王者に輝いた。静岡は、一時

は5点差を付けられながらも7回の集中打で6得点と猛り掛けた逆転に成功した。静岡工は序盤から着々と加点し、リードを広げたが、守りきることができず、地区大会の雪辱はならなかった。3位決定戦は、島田商（中部3位）が6-4で常葉菊川（西部2位）を逆転で下し、夏の第1-3シードを中部勢が占めることになった。静岡と静岡工は、20日から三重県で開かれる東海大会に出場する。

乱打戦、静岡工を破る



静岡工・静岡 7回裏静岡無死満塁、樋口が右前安打を放ち同点に追い付く。捕手・河原崎あしたか球場

7回に7安打、一挙6点

静岡の粘りの打撃は、中盤までの大量失点をものともしなかった。七回に7安打の固め打ちで一挙6点と勢いに乗っての大逆転勝ち。一時は5点差まで引き離され、勝負は決まったかと思われた劣勢をひっくり返して見せた。このチームは後半強い。負ける雰囲気はなかった」と樋口。

この日は静岡工の先発、伊藤の低めに集めた投球の前に三回までは三者凡退と苦戦した。しかし打順が一巡した四回以降、徐々に伊藤を捕まえ始めた。「伊藤君の球が低めによく切れていた」と見た畑田監督は、「上げるな、たたいていけ」と指示した。

長打を狙わず、打線をつなげることに集中したナイン。七回、1点を返して無

静岡 執念の逆転勝ち

死一、二塁で打席に立った松永主将は、「今日は4、5番が当たっていたのでつなぐ」と思った」と、三塁線への絶妙なセーフティーバントを成功させ、主軸の前で無死満塁と最高のお膳立てをして見せた。4、5番が打てばもう、勢いは止まらない。連日の劇的逆転勝ちの「シナリオ」に乗っかるだけだった。

打線の爆発で勝ち取った優勝。その一方で、4試合で10失策と守備には課題を残した。投手陣もまだ安定感を欠いている。七回に逆転となる犠飛を放った久保田も、「自分も（遊撃手争いをする）大村も守備が課題。今のままじゃ夏は駄目」と肝に銘じる。東海大会まで約2週間。畑田監督は、「その間にも何とかしない」と、春の県大会の座に安堵としているつもりはない。

静岡は3点を追う七回、2点を加えるなど、この先頭打者、代打向山の内野 回打者一巡の猛攻で試合を安打を足掛かりに6連打でひっくり返した。八回から同点とする、続く久保田 犠投した青木が、静岡工の横飛で逆転に成功。さら 反撃を一点にとどめて逃げに植村の右越え三塁打など 切った。

収穫の多い大会

5点差をひっくり返され、逆転負けを喫した静岡工。金城監督は「8点取れば上出来。優勝したかったが、収穫の多い大会だった」と、手応えを感じてい

きのうの結果

▽3位決定戦
島田商 6-4 常葉菊川
▽決勝
静岡 10-8 静岡工

静中・静高創立125周年記念館

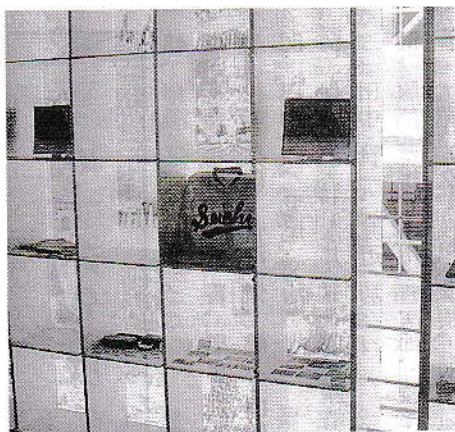
印高館落成

静高ではかねてから創立125周年記念事業を計画しており、「静中・静高の歴史と伝統を重んじ、かつ二十一世紀にふさわしい現代性を意識し、新たな環境の醸成が期待できること」を基本コンセプトとしたアイデア募集が行われ、空間の連続性と多様なギャラリーの使い方に優れた青島裕之氏(91期)の作品が最優秀に輝き、給与建設の施工により平成十六年六月に落成式が行われた。

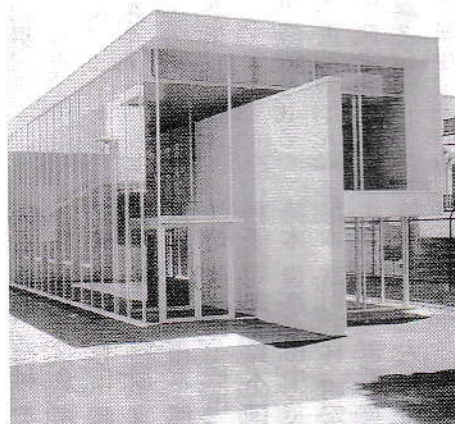
既存の同窓会館の隣、幅十四メートル、奥行き三十メートルの狭いスペースに開放的なガラス張りの鉄骨造二階建て。

一階は使いみちを選ばない広場のような空間で、簡単なパーティや講演会、展示会に利用できるような多目的のスペースになっている。

二階スペースは、普段は学習室として使うことになりそうだが、柔らかな光に包まれた構造で、落ち着いた静かな空間で、展示ギャラリーとしても活用できる。



125年の歴史が展示してある(2階)



雨天練習場

静高ドームもお披露目

学校の東南に位置しているのが硬式テニス場。2面あり「前後・左右にゆったりスペースがあるのでプレーしやすい」と硬式テニス部OB関係者が話す。その2面の上に、ドーム屋根を覆い、雨天でも夜間でも練習ができる施設が完成、その名が「静高ドーム」。

もちろんテニス部が利用するが、野球部も使い、甲子園をめざすとか。



静岡市が政令指定都市に

清水区が誕生、駿河区、

清水区が誕生

静岡市は平成十七年四月一日から政令指定都市になり区制に移行しました。それに伴い駅の北は葵区、駅南は駿河区、旧清水市が清水区となりました。ただ駅北のうち安倍川の西地区、丸子・向敷地などは駿河区になっています。人口七十万の新都市で、全国の政令指定都市では一番人口が少ないが、各種新しい企画が目白押しといわれている。郵便番号、電話番号などは変更ありません。

幹事会・理事会も

活発に活動しています

関東同窓会では、会長・副会長、役員による幹事会、各期幹事による打ち合わせ会などが活発に行われています。会の運営、会報のことなど、各期幹事にお知らせください。



5月12日も総会について打ち合わせた

編集後記

▽今回、同窓会総会に奥様、お子様など、同窓生以外でも同伴できます。静中・静高のパワーある姿を見せてあげましょう。パートナーをぜひお連れください。

▽連休明けが原稿の締め切りとなったため、発行までの時間不足に悩まされました。でも無事にできて、ホ。(村松)

▽原稿を読みながら、先輩諸兄姉の元気な様子を想像しました。若さを保ちましょう。歩くときは手を振り気持ちだけ足を上げてください。(77期・清水雅尚)

▽会報名簿の宛名シールを担当しています。毎回かなりの数が宛先不明で戻ってきます。住所変更はこまめにお願ひします。(80期・吉野卓史)

▽各期の会員の住所録をパソコンに登録・管理しております。各期の幹事またはそれに準じる方の通知があれば会報送付先住所録の変更をいたします。(87期・高橋 宏)

▽役員、理事、担当幹事の83期の皆さんが七月八日の定期総会の盛会を期して、仕事の合間をぬって着々と準備を進めております。できるだけ多くの会員が集まりますように、会員相互でお会いにお誘いいただければ幸いです。(89期・新村暢宏)



年会費は3000円です。同窓生の拠出金で会費は運営しております。皆様の全面的なご協力をお願いいたします。

平成十六年度 静中・静高関東同窓会会費拠出者一覧表

ご協力ありがとうございました。

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------|---------------------|---------------------|---------------|---------------------------------------|--|----------------------------------|----------------------|-----------------------|----------------------------------|--|---------------------|---|--|-------------------|-----------------------|--|--|---|---|--|--|--|-------|
| 43 倉澤 栄吉 | 48 近藤 希賢、青木 香、黒水 高典 | 49 杉本 久敬、菅沼 栄、嶋 三四郎 | 50 田中 誠、丸尾 文治 | 51 伊藤 演吉、永井 五一郎、原崎 郁平、林 盛次、田中 賢一、渡辺 功 | 52 服部 雅雄、小川 善次郎、綾部 立一、新美 弘、大草 知久、茂呂 茂樹、西田 豊馬 | 53 志田 寿一、橋本 久仁寿、桜井 昌也、望月 昂、木宮 高彦 | 54 安東 哲夫、柴崎 芳三、大畑 忠夫 | 55 小沢 忠樹、中野 治良、相川 富士雄 | 56 奥野 進、青木 良文、原田 昇左右、鈴木 源一、清水 逸郎 | 57 原川 久雄、坂田 秀雄、望月 修、月見里 礼次郎、米澤 正次、岩井 平一郎、大島 隆夫、影島 利那、島根 光明 | 58 奥野 広、望月 恵一、須山 静夫 | 59 加納 久夫、青木 豊、福地 彊、清水 汪、長谷川 邦三、原 淳、内田 武二、狩野 和男、瀬端 一男、朝比奈 正二、本田 豊、水野 哲也、川田 昭、大村 和夫、増田 真一、菅原 操、小花 敏郎、大塚 恒、増田 勝郎、青山 勇、寺尾 宏一郎 | 60 萩原 莊太郎、石関 忠雄、上杉 重吉、堤 崇、谷 龍治、井田 淳、原田 龍一、逸見 昭三、原 善三郎、時田 正康、内藤 敏夫、新間 昌輝、渡辺 博、山本 雅之助、小林 金次、山本 正三、益田 清聞、井出 裕雄、君島 康弘、黒田 武之助、清水 照彦、大石 次男、酒井 茂、西田 駿之介、君島 敏男、高山 秀男、山崎 和夫、芹沢 博樹 | 61 62 川手 生巳也、横井 一 | 63 吉川 隆士、三枝 弘之、山梨 長二郎 | 64 65 遠藤 栄、桜井 富士男、佐野 旭、佐藤 弘幸、長谷川 直和、永田 進一、野澤 正憲、松下一 男、塚本 光彦、田中 耿、新井 彰、蛭川 博之、鈴木 明郎、高野 宏、山本 和彦、猿谷 秀雄、狩野 達彦、杉本 哲、岩本 吉雄、益頭 尚文、長島 健、柳田 茂、加藤 満、栗田 行雄 | 66 大坪 信之、小林 成敏、瀬尾 章、加藤 昭、内田 幸雄、村松 武司、森山 秀夫、安池 智策、曾根 錦吾、藤原 隆二、増井 和夫、菊田 聰裕、山下 裕一、山梨 裕司、石川 隆亮、石川 創二、大村 敏夫、原野 谷 朋司、浜田 裕志、村越 立彦、大塚 修弘、武藤 勇、藤原 朝則、川合 勉、小嶋 清司、田中 俊男、中村 伸吾、河守 輝雄、飯塚 二郎、小杉 雅宏 | 67 朝比奈 正三、丸山 英久、朝倉 勇、向井 久和、増田 安国、松岡 健、瀧川 博、小沢 皎二、大石 修而、岡村 英二郎、小杉 謙一、加藤 友行、手塚 重明、長倉 孝三、牧田 仁男、遠藤 一彦、岩崎 為明、杉田 勝男、川上 剛二、児島 英男、鈴木 敏行、福原 享一 | 68 秋山 和也、雨宮 明生、荒谷 じつ子、江崎 善三郎、植田 勇夫、宇田 貞子、菅野 寛也、松下 司郎、鈴木 国功、河口 浩、栗田 瑞夫、鈴木 俊彦、田中英夫、高橋 俊見、立花 雍一、塚本 浩司、林 明宏、望月 節、藤浪 真五、星野 敏郎、吉崎 英輔、酒井 定子、石川 勝也、鈴木 昭夫、大石 康博、瀬堂 川 徹、望月 道生 | 70 有田 久、石山 博、市川 三世史、大草 敏郎、大高 源之丞、片山 智司、川端 正良、松田 安平、森 茂雄、滝口 登、伊藤 克也、北村 孝、久沢 正雄、佐藤 基孝、清水 令一郎、鈴木 明次、清智、関 哲男、谷川 治弘、土井 一朗、富田 三樹、中島 敏雄、中村 龍二、宮代 省一、望月 泰弘、柳沢 伯夫 | 71 石川 宏、梅原 孝允、浦田 彰、遠藤 吉隆、奥村 鋭一郎、加藤 祐史、片山 嘉博、川上 貫三、栗田 甲子男、実石 欣哉、諏訪 逸郎、本間 啓司、遠藤 幸雄、小池 啓治、佐藤 利治、酒井 力、曾根 幸一、富野 寿、山田 卓矢、後藤 弘枝、清水 雅彦、種茂 雅之、夏目 雅之、花田 守弘、深田 均、松本 茂夫、山口 公子、今泉 烈、谷口 淳次 | 72 松下 勝朗、山梨 由記、有光 一郎、中西 英一、中西 宏幸、鈴木 豊、深尾 皓、羽山 武、三浦 英夫、望月 公美、山中 博司、山本 昌秀、後藤 孝子、飯塚 迪子、渡辺 雅俊、石川 八洲夫、石川 征四郎、塩津 浩、西本 昇平、岡本 修、近藤 守、桑原 敏久、三枝 通康、杉山 親司、鈴木 齊、永田 俊彦、西沢 秀雄、遠山 敦子、大石 亮史、柴山 欽伍、松永 文夫、山本 登、池ヶ谷 章、石川 久男、大河内 久、大木 茂、加藤 甫、清水 純、杉山 光、仲川 信正、原崎 幹雄、深沢 靖男、佐々木 勝彦、見城 尚志、佐野 捷造、杉下 晴一、石川 富規夫、桑原 英明、田形 嘉之、花本 栄一、藤原 經史 | 73 74 |
|----------|---------------------|---------------------|---------------|---------------------------------------|--|----------------------------------|----------------------|-----------------------|----------------------------------|--|---------------------|---|--|-------------------|-----------------------|--|--|---|---|--|--|--|-------|

○各期ごとに幹事役を決めて同窓会・同期会の活発化を図っています。
○幹事未定の期は至急選出して連絡してください。

- 81 80 79 78 77 76 75
- 木村敦、桑原伊玖子、田中佐知子、井鍋正良、佐藤鐘司、塚本豊、佐藤薫郷、角谷治子、栗田進伍
- 今田肇、勝亦正安、大島崇志、小林銑一、池田哲郎、国保能彦、坂内三容、鈴木浩、児島三郎
- 安達忠良、栗野吉洲、飯田善久、石間啓一、石山建一、岩崎敏宏、大岩蓮、栗田司、小池淳夫、小長井奎幸、柴田哲男、清水雅尚、仁科光司、三浦昭彦、三浦位通、村松貴彦、後藤嘉代、柳川信子、野方重人、伊藤達雄、石田久二、飯島千代美、大村信子
- 石川暢子、石田久徳、奥山和子、垣生尚敬、宮地幸、石山喬、石井博之、小長井孝、懸保佑、今村史子、川崎敏弘、河辺正宏、立石正之、次田肇、友安昭、山本勇夫、白木桃子、伊藤洋之
- 上田尚亮、岩崎洋子、山本勝、伊藤彬、稲葉啓二、大石恵則、熊井秀則、中山英子、野口正明、野村公美、松本千秋、江川豪雄、島田洋子、太田節一、菅野佳男、増田安久、吉野卓史、上出和子、柴田裕、渥美懋、鈴木真男、高山貞和、仲谷博明、丹羽正雄、松岡豊、山本量正、川田千代子、望月伸彦、吉沢雅子、仲沢幸子、城田房子、英嘉明、本多英一、岡部政之、榎原元広、鈴木昌宏、広瀬忍、芹沢清彦、竹内尚興、田中健二、水上俊彦、森下鉄夫、磯谷和子、嶋田政子

- 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 98
- 大村多聞、小長井主税、新庄忠夫、鈴木栄一、永野順治、伊藤きく代、君塚静男、佐野雄一郎、吉田和子、河合正弘、石部憲治、小笠原正樹、大石正幸、多賀谷秀保、伊澤佐知子、岩崎年史、細川晃、青木式、石川倫男、鈴木良彦、計良光一郎、計良知子、堀内淳司、小倉正子、八牧浩行、大石高志、鈴木潤、鈴木秀幸、福田一久、西野直樹、久野淑子、野々瀬恭平、山本雅敏、塩谷立、曾我恵一、山田孝夫
- 池田幸司、増井喜一郎、江川俊次、志村顕、高橋成彰、伊東成師、成岡和美、矢部徹、近藤孝邦、久嶋寛、井鍋香澄、平岩正史、薬科名雄、沢井良輔、石川嘉和、塩川治郎、遠藤久資、高橋宏、小林俊隆、なし
- 鳥巢修、新村暢宏、浅羽昌之、池田磨佐人、北村佳久、北村美佐子、荒井千明、栗山伸一、小川修史、深沢英昭、森田悦三
- 矢西光彦、倉沢千明、山野直文、岡野素之、岡村幸彦、海野典夫、木村寿克、木村純子、亀山晴信、矢部龍太郎、新村敏雄、牧野英久、永江総宜、岡部正明、青木伸、97 窪田誠、池田良夫、大石健二

関東同窓会会費

一年間 3000円

関東同窓会の会計年度は、4月1日より3月31日までのものです。静岡本部は10月1日からで、異なりますのでご注意ください。

関東同窓会事務所

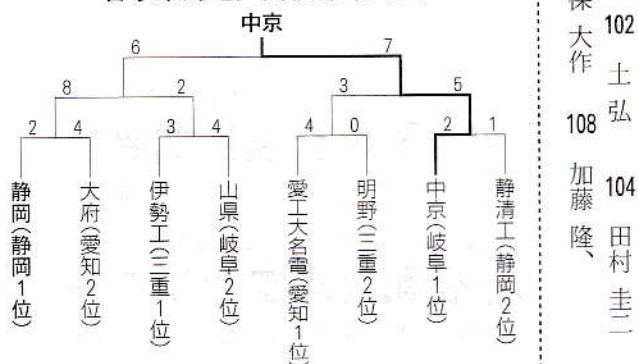
〒101-0045
東京都千代田区神田鍛冶町3-7-3 藪下ビル6F

野方重人法律事務所内
担当・野方重人(77期)

電話 03-3251-2348 FAX 03-3257-0820

県大会で優勝した静岡は5月20日から行われた東海地区大会に出場、三重県松阪球場で愛知県2位代表の大府高校と対戦、残念ながら2対4で惜敗した。

春季東海地区高校野球大会



鈴 与 株 式 会 社

取締役社長 鈴木与平 (76期)

静岡市清水区入船町11-1
TEL 0543 (54) 3015 (秘書課)

京浜支店 東京都港区芝公園1-2-12
TEL 03 (3432) 7152

日本レーベル印刷株式会社

代表取締役 岩井平一郎 (57期)

本 社 静岡市駿河区国吉田3丁目1番1号
TEL 054 (262) 1111(代)

東京支社 中央区京橋1-1-6 越前屋ビル8F
TEL 03 (3272) 4651 (代)

株式会社 富士越化成

代表取締役 野澤正憲 (64期)

東京都品川区南品川2-17-11
TEL 03 (5783) 3841
FAX 03 (5783) 3755

自動車・火災・傷害保険 大 高 保 険 事 務 所

代 表 清水雅尚 (77期)

東京都渋谷区東3-15-8
TEL 03 (3406) 9350
携帯 090-7800-3767

同窓会で人の輪を!!

野方重人法律事務所

弁護士 野方重人 (77期)

〈事務所〉
〒101-0045 千代田区神田鍛冶町3-7-3
敷下ビル6階
(TEL) 03 (3251) 2348
(FAX) 03 (3257) 0820

* 昼2時より夜11時まで診療 *

タカラ歯科診療所

代表 ^{フナシナアキオ} 藁科名雄 (87期)

東横線 中目黒下車 徒歩5分
TEL 0120-376-480
FAX 03-3710-8847

相続税・法人税・所得税などのご相談はどうぞ!

鳥巢修税理士事務所

税理士 鳥巢 修 (89期)
OSAMU TOSU

〈事務所〉
〒167-0041 東京都杉並区善福寺1-30-17
TEL 03(3396)3858 FAX 03(3396)3848
E-mail: tosu@mtj.biglobe.ne.jp

調剤薬局……首都圏中心に60店舗

株式会社 アイセイ薬局

健康と幸せを願って

代表取締役 岡村幸彦 (93期, 応援指導部)

東京都中央区日本橋蛸殻町2-14-5
TEL 03 (5651) 7200
<http://www.aisei.co.jp>

東京無線タクシーグループ 公和自動車交通株式会社

東京都新宿区東五軒町3-3 ☎03-3269-3281

都心のオアシス・ゴルフ練習場 (株)公和ゴルフセンター

大江戸線・若松河田駅隣り ☎03-3202-6558

代表取締役 山中博司 (73期)

限りある国土利用に 貢献する

株式会社 芝工 設

専務執行役員
田畑秀典 (82期)

〒105-0013 東京都港区浜松町1-16-5 芝ビル
TEL 03-5777-2315

取扱い工法

テールアルメ工法
補強土壁工法
軽量盛土工法
地盤改良工法